

会 議 録

会議の名称	令和5年度 第1回 所沢市地域福祉推進委員会
開催日時	令和5年7月28日（金）10時00分 ～ 正午
開催場所	こどもと福祉の未来館 多目的室3・4号
出席者の氏名	赤坂 悦（副委員長）、荒井 由佳子、内山 直樹、大倉 美奈子、大島 隆代、菊池 芳久、古賀 真美子、小松 君恵、高橋 祐二、田中 保三、納富 信夫、根本 明子、村澤 洋
欠席者の氏名	中島 修（委員長）、高柳 進
説明者の職・氏名	地域福祉センター 主査 新井 一也、主任 伊藤 庸介、主任 竹村 俊朗
議 題	（1） 第3次所沢市地域福祉計画の進捗状況（令和4年度実績）について （2） 8050問題等の複合課題における連携状況について （3） その他
会議資料	【配付資料】 ・ 会議次第 ・ 資料1 第3次地域福祉計画目標指標一覧 ・ 資料2 8050問題等の複合課題における連携状況 ・ こどもの未来×リユース×ブックオフ「キモチと。」 ～キモチとどける。プロジェクト～
担当部課名	福祉部 地域福祉センター 電話04（2922）2115 前田福祉部長 内野福祉部次長 菅原センター担当参事 新井主査 伊藤主任 竹村主任

様式第2号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
<p>事務局 （菅原センタ 一担当参事）</p>	<p>1 開 会 開会を宣言した。</p> <p>○欠席者の報告 高柳委員、中島委員</p>
<p>前田福祉部長</p>	<p>2 委嘱状の交付 前田福祉部長より委嘱状を読み上げ、交付。</p>
<p>前田福祉部長</p>	<p>3 開会挨拶</p> <p>この度、所沢市地域福祉推進委員会委員をお引き受けいただき御礼申し上げます。現在の第3次所沢市地域福祉計画は令和3年度から8年度までの6年計画で、所沢市社会福祉協議会の第5次地域福祉活動計画とともに両輪で力を合わせて進めているところである。地域の課題は年々複雑多様化し、課題解決には様々な関係機関が連携し、できる人ができることを、できるだけ取り組んでいくことが重要と考えている。委員各位には、所沢市の地域福祉推進のため、それぞれのお立場から忌憚のないご意見をいただきたい。</p>
<p>前田福祉部長</p>	<p>4 委員自己紹介及び事務局職員の紹介 委員改選に伴い、委員自己紹介及び事務局職員の紹介を行った。</p>
<p>前田福祉部長</p>	<p>5 委員長・副委員長の選出 委員長・副委員長が決定するまでの間、座長を務めさせていただく。委員長及び副委員長は、所沢市地域福祉推進委員会条例第5条第1項の規定により、それぞれ1名を委員の互選により定めることとなっている。何か意見はあるか。</p>
<p>大島委員</p>	<p>委員長には、これまでも地域福祉推進委員会委員長としてご尽力いただいた中島委員を、副委員長には、民生委員として長年地域住民の身近な相談相手となり、行政や関係機関へのつなぎ役としてご尽力いただいている赤坂委員にお願いしてはいかがか。</p>
<p>前田福祉部長</p>	<p>大島委員からの提案について、いかがか。</p>
<p>委員一同</p>	<p>異議なし。</p>
<p>前田福祉部長</p>	<p>それでは、所沢市地域福祉推進委員会委員長を中島委員に、副委員長を赤坂委員に担っていただくことで決定とする。</p>

赤坂副委員長	<p>6 委員長・副委員長挨拶</p> <p>中島委員長欠席のため、挨拶なし。</p> <p>新型コロナウイルスも5類感染症へ移行し以前の日常生活に戻りつつあるところだが、未だ終息には至っておらず、県内では再び増加傾向にあるとも聞いている。これから夏本番を迎える中、委員各位も健康にご留意いただき、本委員会が適切に運営できるよう協力願いたい。</p>
事務局 (菅原センター担当参事)	<p>7 会議の公開・非公開の検討</p> <p>所沢市の会議の公開に関する指針に基づき、会議の公開・非公開、会議録の記録方式、会議録の署名・確定について決定いただきたい。</p> <p>はじめに、会議の公開・非公開については、審議会の会議は原則公開で行うものとなっているが、例外的に所沢市情報公開条例及び個人情報保護条例に規定されている「個人に関する情報」や、「法人その他の団体に不利益を与えると認められるもの」に該当する情報について審議する場合、または、公開することにより公正・円滑な審議が著しく阻害され会議の目的が達成されないと認められない場合に限り非公開としている。</p> <p>次に、会議録の記録方式については、これまで発言者名は公開とし要約方式での記録を実施してきた。</p> <p>最後に、会議録の確定については、これまで委員長の署名・承認をもって確定という方法を実施してきた。</p> <p>以上の三点については、任期中の本委員会すべてにおいて適用されることを承知の上、ご審議いただきたい。</p> <p>なお、本日は委員長欠席のため、所沢市地域福祉推進委員会条例第5条3項の規定に基づき、赤坂副委員長に職務代理をお願いする。</p>
赤坂副委員長	<p>それでは、委員長不在のため議事進行を務めさせていただく。事務局からの説明について、従来どおりとすることでご異議はないか。</p>
委員一同	<p>異議なし。</p>
赤坂副委員長	<p>ご異議なしとして、そのように決する。</p> <p>○傍聴希望者 なし</p> <p>○資料の確認 配付資料を確認した。</p>

<p>事務局 (伊藤主任)</p>	<p style="text-align: center;">4 議 題</p> <p>(1) 「第3次所沢市地域福祉計画進捗状況（令和4年度実績）について」</p> <p>資料1により、地域福祉計画の指標としている市及び社会福祉協議会（以下、「社協」）計47の取組みについて、令和4年度実績の報告を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度目標を達成した取組は16あった。 ・市民参加型の指標については、コロナ禍が落ち着いたことで活動やイベントが再開され概ね回復傾向にある一方で、コロナ以前の水準まで戻っていない傾向も見受けられた。要因の一つに、数年に及ぶ自粛期間で団体等の主催者の高齢化が進み、活動が再開できていない事例があるほか、参加者側も同様に高齢化やコロナ禍の生活環境の変化によって、参加意欲を削がれているのではないかと推察される。 ・全体としては88%の達成率。
<p>高橋委員</p>	<p>CSW（コミュニティソーシャルワーカー）の紹介をさせていただきたい。CSWとは、従来の制度や法律の枠組みでは十分に対応できず、地域の中でどこにも繋がらずに困窮している「制度の狭間」にいる層の発見及び支援を行う専門職である。一例を挙げると、8050問題やヤングケアラー、ひきこもりに対応しており、市内11行政区につき1名の職員を配置している。</p> <p>従来の支援と異なる点は、子どもから高齢者、障害のあるなしに関わらず一旦丸ごと受け止めること。次に、ただ窓口に座っているのではなく、アウトリーチに出向くこと。そこからニーズを把握し、問題が悪化する前に地域サロンや子どもの学習支援といった適切な社会資源や専門の窓口に繋げている。また、社会資源がない場合には、地域住民や民生委員・児童委員（以下、民生委員）、地域包括支援センター（以下、包括）や行政等と連携協働して、地域の居場所づくりを行っている。</p>
<p>事務局 (竹村主任)</p>	<p>2 「8050問題等の複合課題における連携状況について」</p> <p>資料2により、以下の説明を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8050問題等の複合課題における市の対応について、事例紹介
<p>大島委員</p>	<p>平成30年に社会福祉法が一部改正され、自分が住んでいる地域で保健・医療・介護等を受けながら自分らしく生きていくという理念実現の流れが生まれた。そこから行政が音頭を取って取り組むよう、重層的支援体制整備事業が示されたが、スライド3にある「参加支援」が特に難しいと感じている。所沢市としての取組みを伺いたい。</p>
<p>事務局 (伊藤主任)</p>	<p>「参加支援」で示されている『既存の取組みでは対応できない狭間のニーズに対応』という点では、代表的なひきこもり支援として社協の「リーチ！」が挙げられる。また、『社会とのつながりや参加の支援』という点では、第3次地域福祉計画においても市民参加型の指標を複数設定しており、各課が様々な取組みを実施している。</p>
<p>荒井委員</p>	<p>援助が必要であることが明白であっても、家庭への介入を嫌がる方も多いと思う。そのようなケースに対してのアプローチについて伺いたい。</p>

大倉委員	<p>並木包括では、高齢者の健康への注意喚起という名目で間接的な見守り訪問を行い、顔を覚えてもらって徐々に関係を築いているほか、対象への訪問時に顔見知りの民生委員に同席してもらい、定期的に見守りをしてもらうといった協力をいただいている。そうした積み重ねで態度が軟化し早期に支援へ繋がるケースもあれば、数年がかりで関わっていくケースもある。そのほかにも、ケースによって、市の心の健康支援室や社協CSW等の関係者と情報共有し対応に当たっている。</p>
赤坂副委員長	<p>民生委員の訪問活動においても、「たまたま通りかかった」くらいの体裁で見守りを継続することで、問題が発覚するケースがある。</p>
高橋委員	<p>社協においても、直近では兄弟で何十年もひきこもり、家はごみ屋敷といったケースがあった。何度も手紙のやり取りを交わし、また、本人たちだけではなく周辺の方々にも声をかけ理解を促していったことで徐々に改善に向かった。</p> <p>本人へのアプローチはもちろん、孤独・孤立の状況に陥らないために、生活圏域の民生委員や自治会、近隣住民の方々も含めて、緩やかに見守っていただくよう丁寧に関わっている。</p>
村澤委員	<p>支援を必要とする方々のニーズを受け取るセンサーのような意識が重要だと感じた。コストをかけずとも、所沢市民30万人がその意識を高く持てるような仕組みがあればありがたい。私のように定年を迎えて何かしたいと考えている年代は少なくないと思うので、ボランティアなりに上手く活用いただきたい。</p> <p>次に、今現在日本が悪い方向に行っていて、特に20歳代から30歳代の若年層が将来に絶望しているのではと感じている。税金の負担は多く、収入は上がらない。結婚しても共働きでなければ子どもも望めない状態である。高齢者の生活が厳しいのも理解できるが、そちらに偏りすぎると今の社会を支えている若者が崩れていくのは目に見えている。要望になるが、市においても検討いただきたい。</p>
事務局 (伊藤主任)	<p>市民一人ひとりのセンサーは、地域福祉の根幹であり、第3次地域福祉計画においても示している。何も難しいことではなく、例えば登下校の見守りや、ご近所と挨拶を交わすことで顔見知りになることが大切で、公助だけではなく自助や公助も互いに補いながらそれぞれの役割を果たしていくことが求められている。</p> <p>若年層についてだが、現在、国が孤独・孤立対策に係る重点計画を策定しており、埼玉県はいち早く取組みにかかっている。その一環で、県民へのアンケート調査を行った結果、孤独・孤立を最も感じている年代が20歳代だった。さらに、女性より男性、既婚者より独身の方が孤独・孤立を感じていた。背景には、委員ご指摘のとおり様々な社会状況の中で将来への希望が見いだせなくなっている傾向にあると思われる。</p>
納富委員	<p>地域福祉サポーターについて紹介したい。まず、委員一人ひとりの交友関係が広く、ちょっとした雑談から様々な情報が集まってくる。例えば、個人の安否状況から各種団体等の活動内容まで多岐にわたり、サポーターである以上に一住民として繋がっている</p>

	<p>ネットワーク作りを大切にしている。情報を共有し、かといって役割を押し付けるわけではなく、皆が自由に話を持ち寄れる形を取っている。</p> <p>現在、進めているのがバリアフリーのある憩いの場である。老若男女、障害のあるなしに関わらず、誰もが元気におしゃべりをして、ゲームをして、美味しいものを食べている場面を見ていると、こういった交流の輪をどんどん広げていきたいと感じる。</p> <p>昨日は、社協主催の夏のボランティア体験で小中学生と交流したが、高齢者のみの集まりとはまた違う雰囲気があって大変活気があった。先程、事務局からの指標説明の中で地域活動の人材不足に触れられていたが、YouTube等のSNSでの情報発信も増えてきたおかげか、地域福祉サポーター養成講座も以前と比べて若い方の応募が増えてきたと感じている。全体から見ればごく一部かもしれないが、非常に熱意のある方々がいるので、同じ志を持って世代間交流をし、ゆくゆくは世代交代していく形を少しずつ作っていければよいと考えている。</p>
<p>事務局 (新井主査)</p>	<p><u>3 その他</u></p> <p>(1) 地域協議会について</p> <p>社会福祉法人の地域公益事業実施の際の意見を聴く場である「地域協議会」について、所沢市では本委員会が充てられている。例年、第1回目の本委員会において実績の有無を報告しており、本年度実績はなし。</p>
<p>高橋委員</p>	<p>(2) 社協配付物について</p> <p>はじめに、『こどもの未来×リユース×ブックオフ「キモチと。」』とは、不要になった古本等の物品の買取り金額で子どもの居場所などを運営している団体を支援する、ブックオフのサービスを活用した取組みである。未来館内にある回収ボックスに入れてもらうか、インターネットで申し込めば宅配業者が無料で集荷してくれる。回収BOXでは古本のみだが、インターネットであれば、対象はCDやDVD、ブランド品の食器やバックなど多岐に渡る。これらの買取り金額が、子ども食堂や学習支援の場、貧困家庭へのフードパントリーなど様々な居場所づくりに繋がっている。現在、市内では小学校区32のうち、23箇所でこのような子どもの居場所ができつつあるので、委員各位にも周知にご協力いただきたい。</p> <p>次に、第5次地域福祉活動計画 In 所沢の冊子を新任委員に配付させていただいた。「市民が一緒につくる！健やかに自分らしく暮らせる支え合う心やさしいまち」を基本理念として、8つの実施計画、16の活動方針を設定し『ところWITHプラン』の愛称で策定した。市の第3次地域福祉計画との両輪で、地域住民、専門職、ボランティア団体、NPOや商店・企業と連携して共に福祉のまちづくりを進めていく計画になっている。</p>
<p>事務局 (新井主査)</p>	<p>次回の会議日程。</p> <p>次回会議の日程は、令和5年11月10日（金）午前10時を予定している。</p>
<p>赤坂副委員長</p>	<p>議題はすべて終了した。進行を事務局にお返しする。</p>

事務局
(菅原センタ
一担当参事)

5 閉 会

閉会を宣言した。